

# ～上手にデータを管理して、自分だけの電子カルテを～

平成30年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：高齢世代のPHRに向けた健康データ利活用システムのあり方に関する研究

～健康測定・健康相談事業における効率的かつ持続的なツールの開発調査～

研究代表者：看護学部 助教 鈴木睦

課題提案者：(株)ピーぷる

研究メンバー：千田睦美、小嶋美沙子、菊地昭子、穂積幸子、上林美保子（看護学部）

技術キーワード：高齢者、PHR、アプリ、可視化

## ▼研究の概要（背景・目標）

団塊の世代が75歳以上になる2025年問題の克服に向けて、自らの生涯にわたる医療等の情報を把握できる生涯型電子カルテPersonal Health Record(PHR)が本格稼働に向けた段階にある。

本研究チームは、平成12年から健康測定・健康相談事業を継続して実施している。これまでは測定データの一元化に時間を要し、測定結果に沿った当日の健康相談内容にも限りがあったことから、継続事業にICTを導入することにより、健康測定の効率化と参加者の満足度向上を目指した。

PHRの構築に向け、個人の健康データを可視化し、包括管理する新たなツールを(株)ピーぷると協働し開発した。開発した新たなアプリにより、参加者と対面した健康測定結果の即時フィードバック、地域高齢者の健康管理に専門職として効果的な介入することで、地域住民の生活改善、健康維持に長期的な寄与が可能になった。

## ▼研究の内容（方法・経過）

### 1. 遠野市ICT事業の視察

遠野市の「ICT健康塾」の取り組みの実際について事業視察と意見を交換会を実施

### 2. 健康測定結果入力・評価アプリの開発

(株)ピーぷるシステム開発担当者と協働開発

### 3. 新ツールを活用した健康測定・健康相談事業の実施

滝沢市とその近郊地域の住民85名に対し、健康測定・健康相談を実施した。測定結果を開発したアプリに入力、総合診断として出力し、それを基にした看護職による健康相談を実施した。



健康測定・健康相談の様子

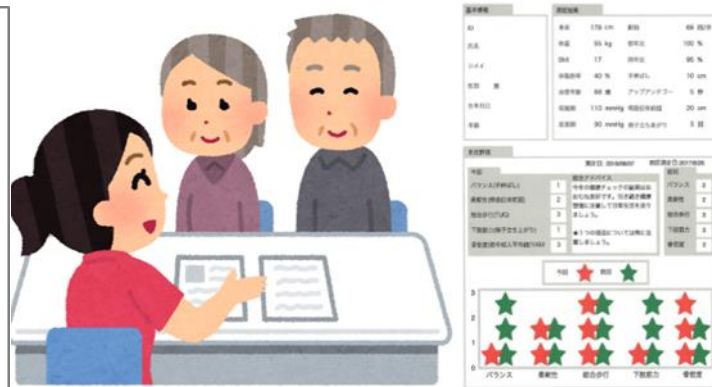
## ▼研究の成果（結論・考察）

1. 開発したアプリにより、健康測定の総合診断を測定当日に直接、参加者に渡すことが可能になった。

2. 健康測定当日に、総合診断を基にした看護職による健康相談の時間がとれるようになった。

3. 個人の健康測定データを長期的に保存し、過去数年間のデータの推移が可視化されたため、自身の健康状態の客観的かつ長期的な把握が可能になった。

4. 高齢者が測定結果に最も関心を持っているタイミングである測定直後のフィードバックにより、地域高齢者の健康管理に、専門職としてより効果的な介入ができる。



健康測定後、総合診断を基に健康相談が可能に

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 高齢世代がPHRを継続していくために、データをどのように管理し自身の健康管理に活用していくか、看護専門職としてPHRにどのように関わることで高齢世代を支えていくことができるか、調査・研究を継続する。

2. 本研究の取り組みを県内他の地域でも実施し、高齢世代のPHRを推進していくためのシステムの構築に向けて、検討を続けていく。

本研究にあたり、健康測定事業に参加いただいた地域住民の皆様、共同研究者としてご協力いただいた(株)ピーぷる様に、深く感謝申し上げます。（謝辞）